Central Weekly Market Report No.

NO. 1004

セントラル短資株式会社 総合企画部

今週(8月11日から8月14日)の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は、週初446兆円程度から各種の金融調節や年金定時払いを受け、週末には453兆円程度まで増加した。無担保コールO/N物は、積み最終週となった。今積み期における調達ニーズが強い状態が継続しており、13日までレート水準は日々上昇していった。積み最終日の14日は年金定時払いが行われたことに加え、新積み期にかかる取引であったことから、邦銀を中心に調達ニーズが減退し、レート水準はやや低下した。ターム物は、来積み期物でショートターム物の出合いが見られた。

13日には、新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、49,410億円の貸付が行われた(期落ち額86,839億円)。同オペの残高は14日時点で233,923億円となる見込み。これまでは全額がロールされていたが、今回は、期落ち額の少なくとも4割以上がロールされなかったため、初めてオペ残高が減少(前回7月27日時点では271,352億円)した。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、週を通して投資家の資金調達ニーズが見られたものの、短国買入オペが30,000億円実施されたことで、レートは低下する展開となった。週初11日のT/Nは▲0.055%の出合い。翌12日のT/Nは短国買入オペが30,000億円でのオファーとなったことから、▲0.08~▲0.065%の出合いと低下した。翌13日のT/Nは受渡が積み最終日にかかったものの、前日のレート低下地合いを引き継ぎ▲0.09~▲0.065%出合い。14日のT/Nは、短国発行と重なったことで、▲0.07~▲0.06%と上昇した。

SCについては、2y412~415、5y140~143、10y354~358、20y169~173、30y65~66、40y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、在庫の積み上がりを受けて軟調に推移したものの、12日のオペ以降は需給の改善もあり、来週のオペを見越してか、徐々に買い進まれていく展開となった。また、3M新発債においては、入札後のセカンダリーにおいて、一時強含む展開も見られた。3M物は▲0.086~▲0.059%、6M物は▲0.140~▲0.1225%での出合いが見られた一方で、1Y物は動意なく閑散なマーケットとなった。

12日に実施された短国買入オペは、前回から10,000億円増額の30,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差0.000%と、無難な結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、WI取引においては▲0.071~▲0.068%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0701%、按分落札利回▲0.0661%となった。前回からほぼ横ばいの結果となるなど、最近の需給悪化傾向がひとまず一服した。発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.086~▲0.075%出合いと、堅調に推移した。

● CP市場

今週のCP市場は、夏季休暇中の発行体が多かったことから、週の中盤までは1日あたりの入札件数が数件にとどまっていたものの、週末に連休明けの資金手当てを目的とした500億円程度の調達が数件実施されたことで、週間発行総額は3,000億円強となった。償還総額は約4,000億円であったことから、全体としては償還超となった。市場残高は、ノンバンクや一般事業法人において堅調な資金需要が継続していることを反映し、引き続き過去最高残高に近い水準が継続しており、26兆円の大台に迫る勢いとなっている。発行レートは、新型コロナオペの担保需要等から、引き続き浅いマイナス圏での推移が続いている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/10 (月)						
8/11 (火)	22,750.24	0.025	106.16	△ 0.020	△ 0.055	4,461,600
8/12 (水)	22,843.96	0.038	106.60	△ 0.019	△ 0.072	4,461,800
8/13 (木)	23,249.61	0.030	106.66	△ 0.016	△ 0.094	4,483,900
8/14 (金)	23,289.36	0.045	106.96	△ 0.024	△ 0.070	4,537,600

来週(8月17日から8月21日)の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/17 (月)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)				
8/18 (火)		30Y 9,000億円 8/19発行			7月の米住宅着工件数
8/19 (水)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の貿易統計(財務省 8:50) 6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 8/20発行			7月の英消費者物価指数 7月のユーロ圏消費者物価指数改定値
8/20 (木)		5Y 25,000億円 8/21発行			
8/21 (金)	7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 75,500億円 8/24発行	交付税借入 10,000億円 8/31借入		7月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位:億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/17 (月)	800	▲ 18,500	▲ 17,700	CP買入	▲ 600		500	▲ 17,200	TB3M発行▲75500償還60800
				ETF買入		800			流動性供給▲5000
				国債補完	300				個人向け3Y・5Y・10Y発行▲1400
									個人向け3・5Y償還600
8/18 (火)	0	4,000	4,000				0	4,000	
8/19 (水)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	
8/20 (木)	▲ 1,000	▲ 10,000	▲ 11,000	CP買入		6,000	6,000	▲ 5,000	TB1Y発行▲35000償還11600
									エネルギー借入▲7000期日6500
8/21 (金)	▲ 1,000	▲ 16,000	▲ 17,000	国債売現先(米ドル)	900		0	▲ 17,000	5Y発行▲25000
				被災地支援	▲ 900				交付税借入▲10000期日10500
週間合計	▲ 1,200	▲ 46,500	▲ 47,700	_	▲ 300	6,800	6,500	▲ 41,200	

8/17は日銀予想、8/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期となることで、基準比率の低下(31.5%→29.0%)や、新型コロナオペの残高減少の影響がどう出てくるかが注目される。無担保コールO/N物加重平均レートは一旦低下して始まると予想される。レポ市場は、利付債・短国の入札回数が多く、▲0.085~▲0.05%程度と小甘い水準での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物の入札、21日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化はひとまず一服しているものの、18日に予定されている短国買入オペのオファー額次第ではまた需給が悪化することも考えられる。レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、CP等買入オペが18日に予定されている。足許の入札案件の少なさから、按分レートが低下するか注目したい。

主要なイベントは、17日に4-6月期のGDP1次速報、19日に7月の英消費者物価指数、21日に7月の全国CPIなどが挙げられる。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入

[◆]本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

[◆]本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

[◆]金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。